

2020 年度学位授与式 学長式辞

卒業生の皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。ご父母の皆様におかれましてはお慶びのことと存じます。心よりお祝い申し上げます。

本日ここに、経済学部、理工学部、文学部、法学部の 4 つの学部、および経済経営研究科、理工学研究科、文学研究科、法学政治学研究科、法務研究科の 5 つの研究科、すべてを合計して 1800 名余りの卒業生、修了生の皆様をお迎えし、学位授与式を挙げていくことは喜びに絶えません。

これまでに経験したことのない生活様式、オンライン授業、外出自粛など、環境の激変に耐えて見事に学位記を掴み取った学生のみなさんの努力に心から敬意を表し、お祝いの言葉を贈りたいと思います。

思い返してみると、緊急事態宣言という未曾有の状況の中で 2020 年度という年が始まり、成蹊大学も手探りでオンライン授業を開始しました。みなさんの思い出となるはずであった学内レガッタ、学内運動競技大会、四大学対抗運動競技大会、櫻祭などがすべて中止となり、楽しいはずのキャンパスライフは一瞬にして消失しました。留学プログラムや丸の内ビジネス研修など多くの教育プログラムも中止を余儀なくされました。無念の思いでいっぱいでした。しかしそれでもオンラインでできることはないか、何かできることがあるのではないかと、学生のみなさんと力を合わせて、文化会団体発表会や地域連携プロジェクト、オープンキャンパスなどをオンラインを交えて可能な限り実施してきました。

それから一年の歳月がながれ、世界で 1 億 2 千万人以上の人が感染し、250 万人以上の方が亡くなり歴史的なパンデミックとなりました。そして今また緊急事態宣言の中で、新型コロナウイルス感染症はいまだに終息の気配がなく、いつ終わるとも知れない闇の中を手探りで進むような状況が続いています。

さて、人々が不安や恐怖にかられたとき、人は往々にして集団化しようとし、物理的に集まらなくても現代においてはネットの世界の中で SNS や掲示板サイトなどを通じて、共通の意見や感情をもつ人々が簡単に集団になることができます。しかしインターネット上の群衆（クラウド）は顔の見えない匿名の集団です。実在するかどうかさえわからない人間の集まりです。このような個人に責任が及ばないような集団の中では、しばしば過激な意見、極端な意見が述べられ、それに賛同が集まり、次第に集団全体が極端な意見に引っ張られていくという現象が見られます。集団極性化と呼ばれる現象です。例えば、「新型コロナはただの風邪だ、マスクもディスタンスも不要、とにかく経済を回せ」という意見もあれば、「新型コロナは一生残る後遺症をもった恐ろしい病気、日本も欧米のようにロックダウンしろ」という意見もあります。そしてそれぞれの意見に賛同する人たちがかたまりになって賛同意見を述べ続けていきます。こうして社会には次第に分断されていく方向の力がかけられます。

もう一つ集団形成プロセスの中で注意すべきこととして、ひとたび集団ができ始めるとそれを強化しようとする内生的な動きが生じることです。集団を強化するために最も手取り早い方法は共通の敵をつくることです。集団のメンバーが攻撃したくなるような対象を想定することです。このような動きによってグループ間の対立が激しくなり、社会の分断が深まっていくこととなります。トランプ大統領時代のアメリカに顕著に見られた現象です。

それではこのような社会をどう生きていけばよいでしょうか、あるいはこのような社会とどう接すればよいでしょうか。最も大切なことはどれか一つの意見をうのみにするのではなく、まずは多様な意見を聞いてみることに、そして異なる意見を比較することです。特に大切なのが意見や主張の「根拠」を比較することです。「コロナはただの風邪、マスクはいらない」と言っている人の根拠は何なのか、「コロナは恐ろしい病気、ロックダウンしろ」と言っている人の根拠は何なのか、それぞれを比較して、自分自身の行動を自分自身の頭で考えて決めることが大切です。みなさんは大学生活の中でこのような論理的に掘り下げて考える力を培っていることと思います。

インターネットを見ていけば多様な意見に出会えそうに思えますが、実際にはそう簡単ではありません。ほとんどの検索エンジンには個人の閲覧履歴によって検索結果を誘導するフィルターが存在します。普通にスマホを見ていると自分の考え方に近いものや自分の興味がありそうなものが優先的に現れてくるため、知らず知らずのうちに偏った価値観に閉じ込められてしまうことになりかねません。このような状況はフィルターバブルと呼ばれています。泡の中に閉じ込められているというイメージです。これを避けるためには、意識して多様な意見を追い求める習慣をつけることが大切です。自分の考え方とは異なる意見をぜひ意識的に探してみてください。

そして多様な価値観の中から自分自身の軸をつくり出し、自分はどの行動すべきかを自分自身で考えて決断してください。それが後悔しない行動をするための唯一の秘訣です。世界中で社会の分断が随所に発生していますが、ポストコロナが多様性を前提とした社会になっていくのか、あるいは世界がさらに分断されていく運命をたどるのか、今私たちはその分かれ道に立っていると思います。間違った道に進まないために一人一人の意識と行動が大切だと思います。

さて、いま校庭には桜が咲き始めています。卒業式に桜が咲くことは珍しいことですが、苦しい一年を乗り切って学位記を手にし、今まさに成蹊大学から旅立とうとしているみなさんに、桜の花がエールを贈ってくれているように感じられてなりません。堂々と胸を張って成蹊大学の正門から社会に向かって旅立って行ってください。いつの日か社会人として立派に成長したみなさんに再びお目にかかれることを心から楽しみにして私からのお祝いの言葉を終えたいと思います。

本日はほんとうにおめでとうございます。また会いましょう。

2021年3月19日

成蹊大学長 北川浩